

11月

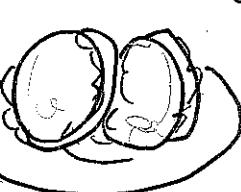
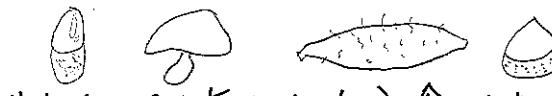
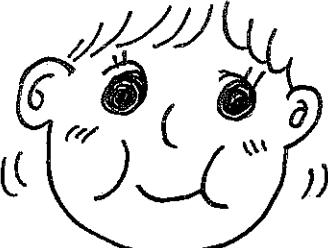
もう...11月ですよ! 来月は師走=3  
何だかにわかに忙しくなって来ましたる



焼いも季節ですね! 皆さんもう食べました??

先月、収穫したばかりのさつまいもを頂き、

焼いもにしようか? 天ぷらに  
しようか? 悩んでいたら、三男  
が「天ぷら!」の一言で天ぷらに  
決定。大皿に山盛り揚げた  
けど、あっという間に終っちゃいました。  
「あ~! おいしかった~!」の言葉に作った甲斐  
がありました。♪ うれしい♪



## オータムフェスタ大盛況でした!! \*

たくさんのお客様に足を運んでいただき、ありがとうございました。  
おかげ様でスタッフ全員休む間もなく自分の持ち場で「てんや」  
やんやでした。アンケートもたくさんの方にご協力頂き 予定枚数  
以上でした。風船で動物やお花を作っていたスタッフは、腕や  
手が痛くなる程でした。200個も作ったそうです。



ある日曜日孫の園雅が天気がいいね  
ばあちゃん一緒におさんぽしようと声を  
かけられ、園雅は自転車に乗り、園のお母さん  
と私3人で出かけると、行き会う人、行き会う  
人に「おはようございます~」「こんにちは」と  
挨拶をするのです。何も返事をしてくれないと  
あの人何も言わないと私たちに訴えます。  
かと思えばお菓子をどうぞとか、りんごを  
いくつももらったり、家に着く頃には袋(お)  
になる時もあるのでありがたいと感じました。  
そして次の休みの日寝起きた園の右手  
に木のくずみたいな物が転んで刺さった  
と思うのですが、刺さった後に15~6本ぐら  
あってビックリ。すぐに病院に行き45分ぐら

(もちろん45分立ます)

かけ取ってもらったのですが、「いいけどは。  
次の日も取ってもらひ2日向かけできれいな  
手になりました。そんな駄菓子がある?  
かつ?園のお父さん(私の子供)も3歳くらい  
の時私の実家から群馬に帰て来る途中  
車で3時間は乗っていた頃、手のひら  
いち面に、実家にあるさぼてんをさわって  
ほたたうて、館林市を過ぎた大泉あたり  
でこれって手を私に見せてドキ! 手のひら  
いち面さぼてんの細いとげがささって  
すぐに薬局に寄り毛抜きを買って6~70  
本は抜きました痛くないの?と聞くと  
何も言わず黙っていました。29年の昔の  
出来事なつかしく思い出しました。

利根日石新聞

月刊

七五三  
文化祭  
文化祭

2009年11月1日

創刊

平成26年11月号

第000061号

発行

利根日石株式会社  
本社販売管理課

TEL: 0278-24-1635

FAX: 0278-23-0980

# 太陽光発電の普及と送電網の課題

北海道電力や九州電力など、各地の電力会社が太陽光発電を始めとする再生可能エネルギー施設の接続を保留する問題が新聞やニュースなどで報じられました。今回は「眞面目に」このことを掘り下げて書いてみようと思います。先ずは下の表をご覧下さい。

① 北海道電力	10月1日以降 10kW以上の施設は年間30日以上の出力抑制を補償しない
② 東北電力	10月1日以降 10kW以上の接続について回答を保留
③ 東京電力	
④ 中部電力	
⑤ 関西電力	10月1日以降 淡路島南部地域での接続について回答を保留
⑥ 北陸電力	
⑦ 中国電力	
⑧ 四国電力	10月1日以降 10kW以上の接続について回答を保留
⑨ 九州電力	8月1日以降 10kW以上の接続について回答を保留
⑩ 沖縄電力	8月8日以降 再生可能エネルギーの接続全てが困難

これは国内に10社ある各地の電力会社が10月31日現在で発表している「接続」状況をまとめたものです。「接続」とは送電設備に電線をつなげて、あらかじめ電気を買い取ることです。この表の通り、10社のうち、6社が送電事業者からの接続を事实上、制限しています。理由は殆どの場合、需要を上回る供給能力に近づいているからです。皆さんもご存知の通り、発電された電気は基本的に貯めておく事が出来ません。しかも太陽光発電は天候に左右される不定性があります。最も発電に向いているとされる5月の晴れた日に中に、管内の工場や住宅などの電気の総需要を上回る恐れが出てします。変電所等に蓄電池を設置するなどの対応が図られているところもありますが、限定的です。

特に顕著なのが沖縄電力です。電力消費の限られた沖縄では310メガワットを超える申請が出された為、電力10社の中で最も早く接続の制限を発表。今後、太陽光を含む再生可能エネルギーの新規申請は難しい状況です。一方で、三大都市(東京、大阪、名古屋)を含むエリアやその近隣のエリアを有する電力会社では接続の枠にまだ余裕があります。大阪を擁する関西電力の制限(⑤)は四国電力の送電系統から供給されている淡路島南部に限られたものです。日本地図で見るならば、列島の両端に制限区域が広がり、制限を受けないエリアが中心に残っているということになります。

しかし、この制限を受けないエリアでも、部分的な制限がかかれています。ここ群馬県北部がまさにその状況です。東京電力は今年の4月1日以降、群馬県北部の殆どのエリアで50kW以上の設備について回答を保留しました。原因は送電線です。このエリアには山奥の水力発電設備と首都圏をつなぐ「上越幹線」と呼ばれる送電線が走っていますが、その容量が申請ベースで一定量を超えていました。ただ、上記の沖縄や北海道と異なり、管内には首都圏という国内最大の電力消費地があり、そこではまだ再生可能エネルギーを受け入れる余地が残っています。この為、東京電力は上越幹線の増強工事を行うこととしました。その工事費用27億円は今後、接続しようとする事業者に負担金の入札方式で集めようとしています。つまり、メガワットを始めようとする事業者は、接続に必要となる送電線の増強工事費の一部を負担しなくてはならない。しかもより高い負担金を提供する事業者から優先的に接続するというものです。来年の2月には落札者が決定する予定です。同じような状況にある地域は東京電力管内を始め、全国に存在するので、この入札がうまく進めば、他の地域でも取り入れられることが予想されます。こうして送電網の増強が全国で進めば、各電力会社間の電気の融通が現実味を帯び、包括的で効果的な再生可能エネルギーの利用環境が整うそうです。

\* 因みに一般家庭向けの太陽光発電(10kW未満)は発電量が(メガワット等に比べ)少量であり、かつ自家消費を前提としているため、上記のような制限を受ける所はありません。(沖縄を除く)